清水物語 上

文章れうきと、このむ人多し。三史文選なども
をみるべしとぞ。ちなみに和歌の玄葉つぐ書五種と
まなびべし。和歌の玄葉つぐ書をもてこのそむ
む人、源氏物語乃ちくひとしるべし。これの
ものの
あるの世、清きりこの記
あきらか。和国第紙よ。佛子百家九事。佛種
なれど記事あらせるなり。今は物語ハ一切
の心ざしとなるべしとみるべし。ひざ次而
ものいはんハ、まもりのはらしまし
世をまもるべし

東京都立中央図書館蔵

清水物語　上

大意大悲の観世音の後川の神ゐひとうるへ
給ひとつるなきやゝ知もとゝめもて
なゝ神を使ゝ給ふくけるゝ心乃うち
そ思ひ南ゝ弔もて又其ゆりつゝ米の戸を
立のそゝ書雅の山つゝひゝ彩よめでゝ見物を
雅ゝ月の前の時面物あつれなりうも志
もゝ此堂ゝ立ゝ立ゝ月のゝもの手面なゝ地
志ゝ義ゝゝ不見とくゝりゝゝぶりゝめゝ
人ゝの物修するを立ゝて風もゝゝ和ゝ國小
使ゝ思使くゝもりゝ年ゝ使ゝ使ゝ年

ゆくみちにて順孔と出合て共に語りて曰こ
とばもくびすなびくこれもぶつとくのり
がくなり唐にて聖人ますそまあひなんせ
り孔曰観音強の法を弱りをよひいよ一角ひ
観世音とは人あらんもの多くの災難をのが
まこと過ぎ津にいくすとくいと津形と弱りい
ちにしりて孔の市にもいたる色くの災難あり
毎人ほ其時災及ぼへいる色
ども其ちるいはこすまいしまいすい思ふ津
なひちるも形くと。仏もものりをのるの物
みくひゆんと云 蘭答曰観世音にいはくはま

しはこそひくくのようそのりとこそなひへす
ひちはれなる境こそほるれんりそあれ続
りるはかはいはもちれあるいと色あく
まくはいるもいりもへまは
あるはりをもつくもへむ
けりまりあて走あり形ばを行ものはいぬ
のりはまるはこりもるれつぬ
りんりはるはこりあてもは
我はるはいはるはるはこはよはは
はいれはこるこそはは津。ありはまくにいのり
はこはこはあるひはたるる津を海

こゝをもてみるに命とは人のもちる宝か
と我身を心ありてとりてはなんぞやこれをもてみんに屋のいらぬ事と其
まゝにしてくゝ過ぬとこゝをもてみるに　以孔曰
理はさへうあひひのもいのすべてもあや
まりらんと思ふ過ぬ事　義曰あそ
ゆるくしやや　義曰物
理　順孔曰理と云
理とは何とてもあるけしや　義曰学文よ
くもあるまけうよりくは　以孔曰我あそびとさ
のゝ学ともなく物ともあきらめぬものゝ何やら
てみるよりとはいてまのあひらんや　義

曰学文とのゝもしゆるきゝ双紙を儀ゝ学文
とゆるしやそれもゆるしやなきとゝゆ
れもそうこうもそれもゝ学文とんひられしう。
学文のゝをもとるすひ儀ゝ把らもしせんもか
きまゝこゝるゆきゝきいらめ学文とゝ云ふ理と
理と我ゝるまけ分のあくうひを結きんうしあ
ゆくひ学文れ学文れ弱くあくゝ径ゝ。
まゝ上代の学文ゝ学文をれも儀ゝき双紙
也ゝ天の道と申ゝ通とせゝ天の理とゝ。
陽五行の半なゝ天と元とゝ陽ゝゝ地と言
下とは法ゝゝ天ゝゝ陽ゝゝ義ゝめ

くさと地しけきりてぢよりもろいの物とてそこにきず
すり。これとみづからよりつぎつぎ法度をたてつる。
臣は君をはせをうけて、あやつらるる物ぞ
事をそへのとまれなり。女の男にしたがひ、子は
親に従ふゆゑにもかくれてしぞみぢとぞよく
有るもきは皆然なり。天地ちぢしたがよなな
し。ものはなきゆへは是を無理として、つぎ
むきものなり。又紀とういふ水と火と木と金と
土となりて火は木にはやかうはなはだしとて物をとなす。
やかれいまといふ水のあく物を生ず。火
みぎ物をとうふはず事ハ非ずなり
り。是を無理といふなり。小物ことに理ある推を
のおもる。我さしてくる我学文と云ふ。これ上古より
また物ひきうり。其後代学文は、学しへのままひきよ
くをりて人の物にはすめる事をがつてまよひ
つきまとはれぬくすりと学文といふ。其後代もと人
しく奴めまでもよのさき事しもおほくおさきをしもを
此ほくなりぬきされ盛をすきるゆへにありしのつとも
きぬまりまちまくさのきをともあちきをほ
しあとひ其すゑに孔子これむまれ給ふ時分は天下
乱国にて孔子の聖子乃おもはなおく、ま人
をあかりしゆへに物のはぶれありつつりとあかりくさの

物を学文とまうす。まことに賢人の心。坂の毋る
これをこのみくだす理あるべきなり。といふ
ものとにこそうきおうあれ。ものの中ほくよみ
くるあいだ。ものこのうそ。奥のさまを見あらせよと
ひとこまにあらしめ。みをもちまもる家の代りい
まうて学文はうりよりの人のまる我はうあ
ぶまつりぬ。たうさ十いろ程みそうりこれまうそ。
ぶぐしくひまくだりかうりひへ
しまうづ兼分よりくはうりこ彩ひよく云義百
色あるべてへんこ中よなるへきをもこれの
師匠道をせうり次よ兼学ぶとあるべうへ

まみをこれいさあるべうへ分ようくこなきを人を
国のあるべうくはうをうりたちをさ
いくはうくこのなくこ武勇人ふすべれ軍法よ
をもうるべる国の寶をうくまを法人のう
ををせうりぬ次よ学文師匠兼上中下をまひ
あうりぬ上書うてもこのまうり
をもうこをはうくあるべうをうりの行ひ
まきびうく今の世よ兼のくよかうん人を上
をひ中をうをもよくを物をうあれまう
つまこをうりをうはうくをうりなうかを
あくなどをうをしてを兼分をうをうをあるね

世中の学文といへば下の学文は文字一つまてこそお
ぼえぬくよみ物よまぬ事もありて。
かなせきかしき事と物ぼきとも下のかくれとも候。
御かつくり文をよく人しもおよりぬく志てさ。
ひとせぬよかしすこし下の下なる人にこ志かれも
よみ物よまぬとて学文のなしぬ事也とハ
申すまじく候ども、およそ男とちり其身代よくな
留と学文と申すへし　孔子曰。さてく学文と
云ふ物もさのみ候へども教はよはすがら
しなと見えくよりみん文字なきとも物かく覚ゆる
人なとのまと云はつまみとハ教はつまるにはやめく
まくさくかくれ候も学文、それハしかの。
さけ物語を読りはしも学文のすこしそおくそ
沖しべくしたるきは事哉。我まなり國のかはりし
ふききせまのかうせてこそは今なりとも又
くきかれなる人は付く多經ての色しつまりれ
代の先くいのかや。とまられはこえいや萬
思ふれも人よりは事多くはへ天のへ人の心さ
今まは一の事とも其まくいまよ物くまうれ我もさ。
是は物ふのき事ぬとても分ねすくれはとみえ
さりさやうなうは草木をとくなくはまた死さ
ま事のなくぬともひてるものとし草木ハ先

ねをとりて、枝をまきて、手を弱く
振ことをみて、なりはひのあやうきを
もつぱらとせんとよりてみくしげの中よりまた
とるべし。殷周三代のきさきは、あつめ文を
周の代八百年あまり用ひられ法をのせ
あるべきなり。ぜんまいの花をきさきのなり
大末代のきさきは、ぜんまいのきみちをみこな
いんと思ひもとめ、のこの心なるべし。今かくまで
も振ことのおとくみをいたりてなりはひやせん
みこの乃ことくんのみあるべきなり。ぜんまいを振
ことなき世にぜんまいをまたひろまたれ
ば振ずいとうのまきみをみるべきなり。
なり　順孔曰ぜんまいをうをよなりみくきまみく
ひくいのはもまきまくみるべきひみてゆ
きあるべきなり。
答曰まきまくとものしるべ
きいのすてもあるまきそこあるべきてぜんまい
まきまきまもこちあるべきみくるを
あるべきみくるべいの程よきもをれをそ
まきまくれみくひきとはなくいぜんと地
のちいのはまきまくみをいやはなくいや
あるべきよりとまりいやはなくいや
きをいすくしてまきみを
小軸よりまれもぜんまいをねられを時

うゑりぬまでよきさるすがみ松あり き事よ爲ん
すゐ松まで今まてさまつりまゐくらう
しと思ふ事も時うりぬまでのきまに
野ゐ(きはり)かゝぬ物ハ衆生五つまんのみち。
くくようきハを知くのもくのくを
むゝ分ぬよ地ゐうする三百八十ゑ多くう
ゐる時の一字すきなまれうゐのまも時
ゐようくうるゑきなすう 弥乳曰ゐとさ指
なりみちをう事をくゑ(のゐ)のゐく
すゐ地ゐるまいうぐゐんゐの事ゐうちものよ
ゐまうくよくいうんや 羅曰ゐ人の

ゐぬのゐきゐすくなすす事ゐうゐうゐんよ
いうゐいうん 順孔曰ゐ囲くをみめぐり
いよゐ人のんゐ孫ゐくなりいうん事ハなすにゐうう
くこそゐいゐのうゐ(れ)さびすミゐくう風信
のなゐ現ゐ(きとハ地ほ)めされいや 羅曰ゐう
てう乃人ゐんうゐ乃人ゐうもな武邑
御をくいうんと地ゐえ(ひ)真子綱ゐよ(り)に事
もなき事ハきりゐうゐくゐんとい(ふ)の程ゐひ
のきこそぬものハなきゐ(り)ゐうすめをきく
れゐう人ゐ令(ゐう)ゐうゐ(ひ)ゐ一ゐうゐう日蓮
宗の事ゐ(ひ)ゐんすゐ(ひ)をきゐひけゐ

世の人、あくまでかつかつまでゆきとどかぬ事なれば、命をかけ賊宝をなげうち、堂塔をたてんとみくびしかども、のぞみのごとくにみえてしかも、目のまへにみえぬ事、ようなるようなる人乃心そこひしれぬ、天地の理、目のまへ乃ものなれば、なきものとしりながら、人ごとにきいたやうなる、乃の地信のもなりいたれば、まことの人の心をうしなふ、ゆきとどかぬ順孔曰、すべて

学者曰、こゝろ時に其ところ、ようなる人、をもひ、人をもひ、ものと思ふ、ものとしるべし、人、あれとぞ、みれば、なるべし、のあるべし、ゆゑなり、ものとしかるべし、学文をもて、学者、なり、順孔曰、こゝろ、学者、学文のこゝろ、ものを、ものこゝろ、学者、大学とい、中よりこゝろ、それ乃

ぶられしに、もつぱらたゞ事をもとゝするゆゑ
に、たゞ大学とやもいはんとすれども、はの
ぶしうるがゆゑにそれをすまいやもんぞ坂の
せよあえもやせまいとて、学書かきうる物
なりゆゑ人の人うる事をたゞ大学の道
やしゝ人うるはんぬ屋のしうるを八ゆ目
けうゆゑ、と云うせうる我八てうもくと名
付うる　順孔曰、人ハ鳥人のこゝをゆゑ人の
人角るとハ行事やしや　答うるうる人
ゆ人うるゆ人と人角ぬ人と角ぬよ人うる
人と人と人角ぬもの多我よ

角とは角ぬ。鷹は鷹ぬ鷹うるゆゑ角ぬ。
ぬて鼠ぬるをとうる。鷹ぬ鷹うるはゆこ
そゆへ鷹とハいひうる。猫ぬ鼠をとうるこゝは。
猫の猫うるゆゑ猫すゆゑ角ぬ
角ぬてゆゑぬなゆゑ食うる。猫こ
の鼠うるはてこそゆへ。猫ことはのひうる物
うるこそのみちうるゆゑ人ぬ人うるゆゑ人の角
うるうる我やしうる　順孔曰、人の角うへ
き分別ハうるうる事ハうるや　答曰、みち
の角うるハうるゆゑ。文字学ハうる大うる
ゆへ。ゆゑ未前後。この学ハ乃学を何事にも

あてて見れば分別の大きまさるべし。
又こまりめもじ字をあてて用ゆべし字
の用ひさへらくしるべし人名は入いなり。文
字ハ字ゆるりとゆへ。ゆるくゆへ
しやの字は前の字をあらせぬ字は後の
字とのもせそ。仮名にもなりきめ。あれ
後ハすゑなり。もとすゑ。ハ。ハ。親をもめくしる。
ゆめやと子孫中めくハ親をもめくしる。
すゑとすゑ形り。親ハもとなるゑ。仮名も
親をはきそ。子孫を後とゆ。れをかくく
とゆるりすゑなゆ子孫中とをも

ゆるりゑと信下と我ハもゑ。
信ハすゑ形り。君のあをはきめそ。分孫あ
を後とすへ。男女兄弟朋友の中も其外
ゆるりゑ孫中めもゆ中あをゆけくゆ
我はきそ。あを後とゆへ。はしゆ相應と
ゆ三字をくゆへ。年お應伝お
應ゆ上お應時お應なゆへ。ゆのきゆ
めくもお應せぬ中ハ海とゆきりハ仮
強もゆられもをそりもゆぎれるやま
ひハ我くとゆくせもれりゆはまりさこ
とゆもをとゆをはゆまにをよびゆま

きれ屋をもぶるんるまくてありてあ
姫の欲心がくいつもとそれ物とに屋をまり
き着りいぢり到とりもあるへまきと思へ
もぶどもとりとりて屋なす。蝦をとんすや孤子。
姫るき知者れ物ちぶまてるもれよりあ人
のるへるるぶへもりるれ屋ほどこひちそ仁の
心なるへるれ到つまのは代よりかりの屋を物
落りを到るりせるまりれ姫るまりひすどく
あまれるれ物をとくく悪北人よめくみーを
りりかるまの心形るへーぶ。毒屋のようとりる事
も形くくられまの家事姫るんるる順孔曰。

まるるの欲いるひまるまるもすきこれもむ事
りるくれるれるまるれるるるるるねるもぶ赤
のみるれ屋理りるるるるるもりぶ老いのと
る思ひまりけいるるやる答曰ぶそれるもの屋の
ぬ所りるりるりぶ其るる綱ぶくい物すと紙くを
り。服をくぶむ事の姫ぶ屋へき屋理
とるるるるるよりるる食すぶるるる
物るりぶ仁の程するの、このむくる物なりるる大ど
屋りりるるるへんは食すりる老るるるるぶ。これ
りるるるれるれるぶすきみるむ事とるるる
ちるりるりるぶるるきるりるるんはやあい

半屋すくひ人へ。ぞきひなる事みくもち
忘りありて能はしとよくきりあるんハすて
ゆへ。屋のと程いやなりゆハなひまとも。屋
まのうとり事と能きりぬれもとれも癖をす
ゆる是ぞくともとりひよ善とうきぬと悪を
屋ありも能きぬゆへとそみそていへ世界人角
よ善悪いきりとれ共ぞやうりんぬとゆる事
地ぞれハ能きりぬくいりんぞるもと云よ二
色あり黄なり地いきがもときりりハんちよ
きりりよりつす。諭石と金をみまけ金みも
上中下とんまけりりんりんちも。

物きるみくん人の物きるみんちに物つる
りんとぞりまれちと二色ありと云へ。善
悪ハあれもきりぞもくりりん信ハんちにハあり
もちん知りりん信命別ぞへ。　順礼曰。世界小
学文きりん人地くりりまれつきれなる物り
人ハまれりぞれもれりりへきる理ていや
答曰。まれつきそる物あまりまくりへ。
角へも石とまくハ大ぞりりむまれつき
めくりりも。楠のまれまれ石ぞなり。松のまれ石
ぞなりりる物くぞりぞハ何とりて
なりりる事そくんりりへも。温水塩

風なるにあらざるべし。
よ本う石よりなりいでて。今自水よつまてゆる
石よりなりいでず。手をつくること幾度も記してこ
そ如くに人の生れつきて。学文なる理
きを理ずしていふとも。今自地のことあるを
すべりいでずあるもこそ。ぬくとぬくと
もいふべし。現ずべきことあるとも今
時の人。学文をもつぱらまれつきのなる理程
みきるべなるべしよもものあんよ
くこそいふ。開れ始めなり。崔れ始るは
手くの中なるべしてこの人のいふ事を。

心むけてこそ。本の石よりなりいでは
いかでこそいふ。順礼日。手月つくる
ものきき学文若の世れよりあるべ行ものあり
中わくいや答曰。ものあるべ心さしよりあ
わそいはずありわれ分をやあ。乃種世
ものもなる現りよき人みくさいあやりせあ
強まくロ物ものぶか学文もの人もあり。人
貴物のものあいものもの人よ。ハかぶり物
ものあるべ人もあり。心のあるべ人を
まれよいへ。心のなる現るべきやものを。完集五

除のさとこゝの物をせよとてとりあひしかりよりいたく
なくこの物をとれあつてあきびとの手にかゝる
有りこゝのものをいひ者は一色にてもこのつゝして
見いるもつゝまつてもとるこゝあるすべ
いと上手の志ありまつしるる我情賣よりてしいる。
以手ものをもこゝ人はまつくまいつゝせんと
いと学文のもうけ賣人はそのほくいはのり
雖へくあるこゝ物りん人はまれることいるあとに
老子莊子諸子百家れたるまでもとりほど
色くこゝうけんし。物つまもくしはへみれこ
ま物をせのくこゝいはへ賣手のあるりは手

のこゝうまいりん賣はせるあきびとはこゝも
いり。一言一句のくもとの物をこゝ
姫人はもこゝすくれのくこゝ
こゝうはせれいはよくこゝ物はこゝは
あきものはまくいや答曰。こゝうは
くいはこゝ。一言一句こゝにまりは行はありかこ
しこゝくいろくこゝみつゝまやうにあこゝ物りん人
はけんこゝとこゝはこゝれはこゝもこゝにこゝ。
つこゝあれはこゝ物はこゝはいはこゝけこゝはつ
こゝ姫くこゝこゝはこゝいはこゝ今はこゝくこゝみはこゝ
こゝはこゝこゝいはこゝ無心のこゝはこゝこゝいこゝ

かゝぬ。こゝぬ人より一きはやうなるとゝ
半にくさそひへ。こゝ子さる人の記くよみ。お
ゆくもりてるはなる我ま雖めて毎　順礼
曰。こゝ子とゝ賢人ゝ。この半ゆくゝや。賢人ゝ人
ときゝひ山ゆく入。色うんなゝひ食物我
入。某此戸こひむゝ。ゝびさるゝりさる毎なる毎
人とゝゝゝなるや　答曰。其人ゝゝ大よあやま
まにくゝ。此聖人とゝ。人ゝ生れつまゝ毎ゝも
ゝくきひもうき人。賢人とゝるゝむまれ
つきすゝ聖人ゝ。ゝゝとゝる人の学文し
く聖人ゝゝくゝなりゝ毎と。大賢と
ゝひ天下の定も大甲咸王ゝゝゝ賢人なり。
ゝ下ゝへ其ゝずなゝ我ゝくゝりゝ。某の戸
ゝゝもゝ学文ゝゝゝゝもゝゝゝ山中なゝゝ
ゝきゝゝ時世我ゝゝゝゝ賢人もゝゝ。市ゝ
中ゝ毎ゝれゝゝ賢人もゝゝ。ゝゝのゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ成人を賢
人とゝゝゝゝゝゝ大ゝゝ遠ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝきんゝとゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
人中とゝきゝひ山中ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

もありぬべくは其分にて天下のまんなかにもぬよ。
帝朝に中にもいそよ。山中にも隠居せよ。
それよりは宰相あり。順孔曰。隠居とは
くるなりとやいはんや　答曰。隠のしるべ
はなきあるべきにはあらぬまづ人をもとやもし人
とやぐりぬよりくくりぬ。のまぐ分
よりきれ。とつ。山ゆくくれぬく天下を
わつ。二度世をのがれそなを隠
やとやしる。儒ぬれとやはぬとせとうむ
ぬそ。人もなきぬ少人よりあくあれ中
よりるぬ中をきくに人
てぬもすれをよ用ぬ人ものそぬまもぬせ
ぬりそく天下の民をすくりぬ乱国ぬく。
山ひ海をもすみぬくぬ時に帝に中にま
きれぬくぬき人のやうにぬ日くをくく
すもぬりをを帝ぬんとりなりぬ世をかく
ぬて帝の中ぬもぬまぬせもぬりぬ様
の時ぬりくれぬくちくりくぬ門ぬん
茶ぬぬ。彰行なぬ。一侯徳元ぬぬ一色ま
分をくて月日をくくすぬんきよもぬりぬ
切り名をけく分月をりそぬ。老を送ぬん
きよりぬりぬ人よりをおくに

ほうきと知へし　順孔曰ぜうこよ人ハ行儒
而ハ之ちゝ上ハ人ハ賢人也
よろこれ物ちりとも之ちゝ
曰陛下の為舞ハ世ちゝ
きあつまり風をてぶ
しぶやしきもと兼ハ
つれとゝ之ちゝ
のん新ゝ重て欲ハ
まり面者もだれけむ
人ハ之れけるへし
ほうきと知大臣重

この心ある面ハ
人ハ
ぶくをきく小重代の
もゆくゆもゆまま
めてきもとゝ
やといもまあ
のほうハ
男人ハ

賢人ハ
賢人ハ
ちゝ人のう
重寶金銀を
ちゝ人ハ
ぶもつゝ
ちゝ人ハ
ぶ

まれとわう者のくるまをとゞめていうゑ
我いまき者ゆとゝいもん事をもつゝく思ひ
又ちつまてゝちかりうゑゆゝくゆゝまめく人のこの
うりとぞいくるくせうんもいとゝもつゝめとこま
も色ろ少人よ世と部應せず。老うゝあれと。聖賢
もおくゝてゝめうたるまれも其日我くゝに
ゆりうゑゆゝくあうれなるゝゝうゝよく人ます
ぎめられ命もゝりれあるゝもゝ部くゝぞ
きゆく人もうんみえゝう。傳說といろ人ハ津
いち津く日月ゆゝうゝうえゝひいゝきれゝ天
下をうすく治大臣ゝうゝ。韓信といろ人ハ。

うちもりやの中ゝうえゝひいゝきれゝく。一日て
千万人をこえゝく。大將軍ゝなゝまゝりやゝ
えゝひなゝて。人よゝすゝれゝうけんじやゝぞい
津へきゝも部えゝうゝりやゝのゝりんとゝ部
ゝゝみゝも市にもゝ是ゝもゝゝありぬゝ元
ゝゝ人ゝまゝれゝる治順孔曰。國くゝの法度ゝゝ
されゝをみきくゝよ。法度のゝうゝりゝあゝれゝの
きゝゝいゝに 答曰。乃理なゝ法度ハゝ川地
みゝゝのゝもりなゝ法度ハゝぬ物ゝそゝゝ心ゝに見
ゝゝ人ゝ部ゝゝる水をゝ山へせゝあげゝゝゝん。常座
もゝりみゝく屋ゝく堤もゝくゝまゝゝゝんゝむりゝる

法ゑくのこと。其法ゑなりひつろ人は目のあ
もりにくぶち人さちうのきりへもぶちゆやれ
いさり　以礼曰むりなる法ゑのあちいりぬも
いちもあるへ人のあめにようき事れむなる法
ゑのあちいりぬそりくもろもろみくいりんや
答曰それもうけゑりぬ人のぶあやうなるぬ
みくいへ。ゑれ物ほせそのまくいひまて
ふゑ物んみくぶよまぬゆへみくいりんや
物とうきて見いよみるすぬてみくもかか
このようのみくすきいうもちづひぶ水よ丑
とうきのあんぶうきあぬゆへよ法ゑもる法ゑ
れあちいりぬもぶひくゑりる人のゆねようひ
ぬみくこそいへぶひぬゆりみうなるとに
くきとまへ　順礼曰ひやうのようきやう
ありきりくもなりいりんや　答曰ぶよりう
あるいようへう称くかうとかうかく　以礼
曰卒余なるみくいりへもぶも更いへもぶ
りくりみる屋きもちいりやまの面色
ようもやいりふぶ人うれつく同行とあほ
き人屋くくとくのへくきれり老人とろ
くりてぶのうちきくうにぬほえぶくみまハ中
ゑ人小豆とゆくこぶ上ようすやう糒餅とも

ほまつけたり。是なるをも小豆とて、それぞれ名ある
されど鉄と名をつけしは、いまは毎年ごと
昔ひもくさいれおほりいだしまつる物ならず。
かはりかはりあまたのほうれもとめてそのほうのかはり
よろ川きひまくなるぬは、すでにすくなき世銭見
よるべき橋こそすけまでも涸をしほしき
れむしきく人くかんをもよかりくそで袖
とめしきたりかさいるなりし人さしいてひろ
ぶやうに抱こに心銭つくれもつきでもなし。
されくとまがりをとつりみられしりて涙おし
のいりりはあいぬへしびえぬはしきのにはまのわれ
といへも人くくえこいとそまる人の心に
まかはるおきにもぶつせむらい毎抱この那
順孔曰。またかの国は、さされおなく大国にくは金也。
毎かきてもいやしききも殿も町も去年よりこ
としはすのひしばまかり今日は、かげは、何と
そうの事にかくはぶんや　答曰。士農工商の
民は国の宝なくてかなはぬものなり。その中に
よ寺にもうつぬまれをゆうえんとやしは。極
えんのほうききき国は、すいひきらかれみやくの　順
孔曰、またかの国にも僧法師なをとは、すてて
はへとまぶさしてゆうえんとりつへきことおれは

答曰。當民の中にも、ゆうこんあるべし。偖は民のうちにも、國の為にはたらきもあるべし。然れども上一人の業績のごとくにあらず。夜昼すべて めぐりて國乃ことあり。ふかくすべて、えろまの もの程よりもひえんの板をつくめて、たれ ついえをとりこめ、ゆうこんよりて、徳を 再みもとに國の風くみもこめ、戸録と くゆうこんとうつる。世界ゆうこんな かくんとゆもつ。志のまへより津人とよ ろづのうち程業績れ、ろかうきくはちう とそくばのまとこへ。

して國のくりろきになるべきとゆうこん 津とあさせ。人れ心のようそうこんを 次こうれ事を人れいるみりれぬもり まをめぐりゆうこん津ようよるさん ゆうこんはうこんすきみくいへ。主志 一人のあるよりく千万ともなるそ人よ多えろさ りまの國乃つい志うきりなるまゆすいひの中多 ちれるへ。

順孔曰。法あれ侍乃これいや ちくなくゆうこんのよりおうこ りうこんはまりくいや 答曰。その主志のつうこ ひ屋うのまくなる 多よりおうりゆ。志うこ ろ人めれまへのうちま

りうにようをれもかくこうけわくハ牛るのくの
ときりぶやゑ子知ゑれ相ぜめすこ人のをんをも
ちうすおりれをちうぬとりうもよきぶ公
人とゆ爲ぶおまりうさへぬんるすぎ爲ぶ行く
をもこいい爲へよ見くおりゆきぶ心よりぶぎり
ぜちうこぬぶうるるあそりきまりうれ人乃心
のよううん半を祈りりぶつねくのさりうよき
をれをよくくもちゆへ親よかりくなり人を
ゑよらうあり人のちうみをぶんをるす生
ぬものハ生ゑのをちあをとすてをぶなどちよ
りりけすゑ者ハ半ゑぶよりげ望ちうぶ

ゑうのまりぬをりりぶせくぶ人のりりのをけく
められあゆんハ見くかん人れうぶよくぬ下ゑ
のまへときあく人のうあもりよちくみて
ゆりぎりををんもちうぬわづま者をより
とゆるりぶりがんよりれきのりりまいく
いりんやぶ坂ゑんれありうきぬわりぶりの
ー半なん地ゆりまりぶりゆ

順礼日ぶゆれか

ゆくいりへよりあるくりぶ人のさりくなりも
あくみなる半れ伊ー今をあるのうきまる爲
半やいりん　答曰ぶゆる人も地ゆくりりゆ化。
ぬくてりれりぬ人よりをりきりる爲をりそ爲

いかんぞ天子も老よこそを師匠とする
のいのり今いかんぞ父なくしてまれる今いかん
老そおとろきの家一なるべきう
ハ人の師匠おもはるべき人ありてさもの
為孫ん子ハさやうの人なきおろかくいかん
孫曰周の文王ハ聖人なりしに太公望を
師とせり文王より太公望ハ師匠とせられ
師匠とせられ給ふ聖人ハ師
ゆる人ハ形ぞ物とこそ孫りをのひいだされ
ともいうにうきとして定りにくよ孫り
ちるきよのうすぶ人の分別ハ老ちまた
ひとめ事とまるまるらるあくもたるとちりく
かうぶきもいもこのりぶれと親分ひとりを
ゆるぶまう分ハ師うるものハよにすまとも
ちうめうぶよりぶよりてすくれる我
師匠と名をつまくぶ物いもせあるんハ一きい
あうきおくまやいうんぶさりぶうちき比僧
法師なと師匠とて国ハ老きなく人のう
孫をれうぶまきハなきにおとりなるへ
物をとしつまきぶ人の中あもうるまか
一定と名のつきうるハうへきものの老孫
のりうぶ君有心やをくかうぶすぶなり

師道、を後合戦もつ強なる人なれ。軍法よ
を師とすれども、そもそもそこぞもとり事の用ゐ
為りとい事をかくれる人をありしぞ。又友を
い、五つまんの計りあるべくなくてうれもあ物
すれども、もちろん人をすぐれたるもあり。
やがて国のかとりうへ見きたびぬと
い、心我乃こころすうちわてうぬきゆきを
まず主命ひよりきまとも我ぬ
わもんこそ友をあるもうぶたのつきあいそ
の姫さいの主いうたくるにあるたびまへよ
うこゆりのるものぱとも合わのを
れちりをこそとれ心やすすとてもあとたいひ
ろ。なきゆへよ大分なる人ぱの事を
現程ってきもれ、ぱとぬもいれる
こそぼさなまれぞうばげあくはるへとも。ま
ぬあくいい人すぼまれるもさやうれる
い人あれぞぱっとくちつけを其人を
用ぬ事とひてもせんすと思ひぞ、ぱあむ
ぞのちりをいやすりとそ我のくぼの事
そなすき其と我のくをあんる人ぞよく分れあ
めとりんつくぼめくうぬゆへよ見ぶ心ぬご
つまくとすぞれよりく大分なる人の。

ゆちづれしるをみるに半とは人もおもく心の
あらき程みえそいとあられはあさ海ゆ下
下の中よ人のなりもなるへき人やうの事をみ
るに其分面亜なるはいあれとも心つゝにいや
しくて因まの花よあらはれうるおとくなんん
をつきるゆすゝこ云業やむ事おこさも心
まあおろあぬはあやうしゆ心も大こうのかゝぬを
ひいきつくるのんはゆ人のこゝみあるへし色
よすきこのむ心のつもゆ色よ如ぬ
色ゆやうよこれむなとせられん人もまれ
なりゆくなすきあわもあるゆ十分よこを
おきれとも故おもなりあ〈き人見てうに
ともゆへむゆこあ人よなんのりあやきん後先
やうにおもゆ〈ゆるまゆ物おりゆせよすむひ
もなきまづきあわそ人のんれそこはゝ
見れ人の心色く境ゆけくみそんゆさ
ぞ色もおとうきれ色のあくひさりおゝゆはは
椿の花おもあやうく付てもゆ人もをよむ
ぬ見まなりもあまるゆのここおゝよりあ
ゆ人このむ人のりくもりいゆゆ後

きゝもいりすんて　順礼曰。よろい法合
すゝめ。あゞんはたらくゞ　人といふ人あり。せ言ん
はちゑのいゝあもはすくなくぢゑれあるあはに
ほ。あゞんはつるもどよきまはあるあ
ゆゑ殺はいりた　答曰。これはつまよ人のりあろ
年あくはへこもゝ心はかうられり。是は千人百人
の中よりすゞれるうん人をありいてもあり
うあ人五人のうもゝ三人の別はあくあ。
三人あるも二人はうへくはくへとはゝ年う。
まけ色なき人をあつあ。あゞんはまうへうと
はゝ年あくは別ゝ。はきはは法合は昼
をへ。よきかはんと思ゝ。来法合すへ
。昼の心は陽あるくつ。和のんは法あるく
より　順礼曰。人の命別はとくもゆゑが
まくはゝゆゑ殺りへ答曰。
ゝづきあるはいつまもよ法かゝす。殺りあ
命別はゝの用は立ゝ。もあくまは
もるゆゑはりめはまくする人あるゝもゆ
きゝ別はあゆまりまるゝゆゑ年はゝ。上
の命別はおくくてよきゝ年とゞあくてよゝ
まゝゝ。ゝ二はゝくまくゝ殺るへき式
も殺りゝもゆゝへ。ゝ人をもはゝゝきゝもれゆ

なを我上とす　順礼曰。大なる命ハ人をとむ
る義なり。暗なる山を行くも。命さだ
めまてもうんを知らく事なり。よわんしてみ
もんてるふ志ゑ（きゝ）時ハ志なきもしきまる
ひもなる義ももちをはすとみえたり。さし二
りの心もちをつくまてもちろう能はや。光経る
をもてぱよりてうりを思ひあやまり多しも
ひへ　答曰。これを一大事わくはへ。これを
よく志りまけしぬ人をめしやうとやはこの
ゆうをもちはさむ。運命といふ事我
志りくまりつるわ。石公張良に授ける。
張良うんをかうそ志てもこれなりかう
とかうそ七十余年なりよひくうう
そ海を行ひしもかうそ運命の使ゑぬ
事をよく志るゆへ。幾の友をか
まて。後ハ天下をゑ
め行ひ色運命を
る我軍書ハ。張良
く地ゆくありつまて
そでもなきあのこ
もあ。ゆまうこ
けいのもちをすぐ

とをもてはへしもこれなりかう
ゑ百年ハのまりくおき
へ行ひ少へなり。せ
ゑ良かうそにつくへうる事と
ハ大くもせぬ
ゑ。ぞ
ん命をもをぞ
ぞ運命

とはいふべき歟ゆへなり。大公望と。こうそ
こうと。そんしと張良とは孫子の軍法や
まうぢうの頼朝卿はこれ歟ゆへ
きくぞうこうまさうんぐんと。重衡なとの命
となり。黄石公がはりさまのいつよりひ
きつぬゆへなり。近比石田がはりさまのいつよりひ
ぬかくあきの命令を志ゆゑ
を分別してすいつまうつすぶ事。ゆゑなり
歟ゆへ。ひとつの事ゆゑ 答曰。大事の
ゆゑ。すいつまうみて。はつたなり志と
きうきうきそのぶ。すの脉をとりく人の

いききうの強きゆゑ。ぶきうにゆゑなり
事ゆゑ 順礼曰。大勇小勇仁義の勇血
氣の勇とゆゑ。ゆゑのいよう歟をとひ。ぶきう
ちゆきくゆゑ歟 答曰。血氣の勇とは。
むりまつのきとは。仁義の勇とは。理
ゆつのきとは。小勇とは一人のもてきい
くきとは。大勇とは一天のりくく天
下をゆく程のものとは。ぶきつかい
刀をとぶゆゑ。ものすとゆゑ。ぶ。徒人ぐよりゆゑ
いんとゆりこぶきとゆきゆゑ。大
なゆゑ功とすとは大勇とはなり 順礼曰。

元
是ハ分別者りてまことにいろめ勇ましやとい
ひて　答曰勇とハ思ひきめてつよきを云。
人ハ三ものくもの人ハ仁義の勇ハ人よ
りもをつきく事ハまことにまことをあらはすこと
なり勇にくつのり　順礼曰ぜ勇ハいつまつ能
いや　答曰いつまてもよう仁義の勇ハ人よ
まのぼりてをさせぶ勇ハ人ゆうぶん
つくるこの入ことにつひ大勇ハ人よハ大なるをさ
せ血氣ハ勇者よりもりよ勇ぶるをきの不可
用いへもこれ用よりい事いへ　ぶ基ハ
と虎くがおとぶ上ニ平と下きとうまくへし

順礼曰ぶ国を見めぐりあるいのもの色ニ
一人のもろ人ハ部中よ大分なりまた
なく部老ハ家ハ城ハ家をぬ國もあり又形ふ
事を家をよ海ぶせ志ハ大分ハて威乃
あるやうよ志ろ國もの多ぶ　いつまてよくいや
答曰いつまてもよ弱かくす大分ハくゆ世
るハよくいへとも臣下の威つよくにくまれ
ぶくいへも其ものくとしたちまくする勇ハ
あいくようあきを形ぶすゆへよくに
もすれくにくに威をとうぶをとしり
めんとすまむ地ぶくへ人をとうひ威の分

とあやうくようとのたまへるもまことやうにぞ
家中をかりあつめてもいかでかはいかにも家老よりせ
ぬやうにまでうちぞ孔の威はあるやうにぞ
のぼりまさるべきなりとぞ
くなりぬとひとりぬ人のうるはしのやう
みせもまうすみてるまきまもはぬ
ぬきこまりぬ孔のたのもしんぬ時ぞれとかぬ
とせんやうにぞ孔のうるはくこそみれぬる
なりうよろきよりすぬ　順孔曰ぬ二りを
のひていかにまうちうよりくしや　答曰孔をおこ
くしてぬ威とうとびとぬ孔をお
もくすとぬ沼まくくの孔りぬくぬ
とぬしぬ孔ぬ大ぬらとおもんしぬ大
ぬ孔ぬ家老をおんしぬ孔りうこぬ
のいうりぬ行事おくもそもぬ家老ぬ孔
をぬくおそれぬ孔ぬしぬ孔ぬこと思ぬ孔に
おるへしぬ孔孔りぬ威をうこぬとぬ黄と緑と
乃二りうりぬ人ぬ知りをうぬ孔ぬ孔ぬ
とくぬ人の身上孔ぬうすぬごとくぬつうぬ
そめおもぬ人ぬかうぬ物ぬりぬ孔ぬこうぬ付く
りを威をかうぬと云ぬなりぬぬまりさへの
まぬ国の大小りおりて大身なる人ぬ

こそよのをんなかの者もとりあつかう衣
よのことなるべんち　順孔曰ざうよりはりいへ
ども孔もものき事もぼかの今のいかに
きくいれぬがよくいやさうよいうぐのき事
とのきとのひあるんぱいとかくのあるよ先
いとくかう事なりあつきをこのまと
いひこの時ぱかのき人ぱ式のかくきいく
ようあへぱこれも行ものまなな
るいんうぱこうあはかあくき者のまハ人の
くこれるとのひくそ人のきるもの
くかひいきたなり老ハ事ハのくいひくう

こうとのうまさせざんみんひまれうかあ
いんん　答曰ようき事ハ行の猛もとりのう時
のもせくきぱよのんぱくちをきぱ其上よ
くぱのさかをぱ俗ぱてもちあへきあ
しとくぱてのぱまもちひあんぱ孔ん
威ぱもうあへぱのきぱ老のまもうほもも
人よもせくぱちよそあうこぱて法度
くるへあんぱ人のきへうす孔を威を
うきありくいへき　順孔曰孔國よかきき
あうよくぱ大あけかくあ事ここへぱう人
のお入法あとうう人のう孔を行ぱよくい

りんやぼうこのつもつてにこそ物こゝろ
見物する人物もつくまつりぬ心ばせ
入をきらうれいをぞ
侍の物をこのむ人の人をくいつゝ
んひられぬきさなきぬはそてもやいりんず
法くまんだん法文ぬる礼わり仏事ぬや
角ゆぼき事物ゆまぼきみくもむ
ものまぼきみくもむ
ものしるべ下ぞる礼いつきめ昔より天
子ぬ物ぬ物ひ天下れ元もゆるし法ひ
事なり。こ更まう国とてぬ事のそをを
とりこめる礼なりぬ年貢をうぬ。
ちハ法ぬもなとりぬる礼わり。ぞる礼ぬど
八天下の人ぬもいつまぬ
るまぬ法つ色まりてそうみも礼ぬ事ぬ
其さぬりぬ。のまりよもんもうめくまりく
しぬれぬる事をぬる礼ぬかんと思ぬ心のう
ちのさまりぬ事ハりん　最曰。
子細もやいりんいさまりす　叱礼曰。今の代
のぬまりぬ事めや　答曰。ぬひのぬんりく。
ぬりかぬまぬなりとこそ。物のまを忘山のあくま
でも物りてひへ其ぬ事ハ神ぬぬりきまん
老ぬ人ぬりる人もなぬれぬきくぬとめく

110X
235
2